



▲会場は参加者の熱気であふれていました

会では人材の確保や定着に向けて、介護職員向け交流会や研修会を実施するほか、大学生向けPRパンフレットの作成や小学校への出前授業など、若い世代にも関心を高めてもらう取り組みも行っています。

古今東西
くんぐん
行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子などをお伝えします

「Date care in仙台 中堅介護職員研修会」に参加された皆さんにお話を伺いました。

介護職の魅力伝える

市内の介護職に従事する経験5年以上の職員を対象とした「中堅介護職員研修会」。約100人が参加し、グループワークを通して仕事のチームワークなどについて熱く話し合いました。

この研修を企画したのは介護関係団体と市で組織する「仙台市介護人材確保取り組み実行委員会」です。実行委員

実行委員会には「きつい、厳しい」という介護職のイメージを変えたいという思いがあります。「業界には、家族が体調不良のときは遠慮せず休んでいいよと言える寛容な風土があります。自分たちでマイナスイメージから脱却していかなければ」と実行委員長の高田洋樹さん。実行委員の室橋洋介さんも「介護は誇りの持てる仕事だと周囲に伝えていきます」と話されます。研修では市内事業所が一堂に集まることで、事業所の垣根を越えて思いや悩みを共有し、横のつながりができているそう。研修に参加された皆さんが介護職の魅力や誇りを実感しながら、手を取り合っ

て業界を盛り上げてくださることを大いに期待しています。

感謝の言葉が原動力に

介護職のやりがいについて「なかなか心を開いてくれなかった方からの感謝の気持ちや笑顔が見られたときに良かったと感じます」と特別養護老人ホームで働く加藤匠さん。グループホームで働く庄内美沙子さんは「最期の言葉として『ありがとう』と言われました。ご家族にもこの仕事を続けてくださいと言われたことが私の原動力です」と話されます。終末期にも関わる大変な仕事ですが、利用者の方やご家族の笑顔と感謝の言葉が仕事を続ける上で大きな支えになっているのですね。

グループホームで働く小野寺英二さんの将来の夢は「一人でも多く仲間が増え、利用者の方と一緒に笑い合える現場をつくっていくこと」とのこと。高田さんも「子どもたちが介護の仕事に憧れ、僕たちの仲間となって共に仙台の福祉を支えていけたら」と語ってくださいました。

その人らしさが輝くまち

介護は大きなやりがいのある仕事と話す皆さんの明るい表情が印象的でした。私自身も家族が施設にお世話になっており、職員の方々の励ましに力をいただき、いつも頭が下がる思いです。超高齢化社会の到来を目前に控え、ますますニーズが高まる介護の仕事。人材不足が深刻な課題となる中、安定した介護サービスを実現するには、従事されている方々のキャリアアップや魅力ある職場環境づくりを支援するとともに、将来を担う世代にも介護職の魅力伝えていくことが必要です。

そして、いくつになっても健やかに安心して暮らせ、最期までその人らしく生きていることができるまちなるよう、私も皆さんと手を携えて取り組んでいきます。



▲前列左から小野寺さん、市高田さん、加藤さん、後列左から室橋さん、庄内さん

